

ようやく半袖シャツと扇風機がしまえたと思ったら、もう郵便受けに年賀ハガキの注文書が入っていました！（エエ〜ッ！！）

この秋、嬉しいニュースが飛び込んできましたね。

山中伸弥教授の、ノーベル医学・生理学賞受賞の快挙！本当に素晴らしい！！作成された、このiPS細胞、体の細胞を生まれたての状態に戻すことも可能なんだそうですよ！出来ることなら私の身体も、初期化してほしいところがたくさん有るのですが、実用化が間に合うでしょうか？



喜びをたくさん分かち合うことで、優しい心が芽生えるのです

～かわいがり子育て・佐々木正美 著 より抜粋～

生まれたばかりの赤ちゃんは、優しく愛されることで幸せになります。「5～6 ヶ月になると、子どもは親と喜びを共有したいと願うようになる」と気づいたのは、20 世紀前半に活躍したアンリ・ワロンというフランスの心理学者でした。

発達心理学の礎を築いた彼は、子どもたちを観察し続け、次のような大切なことも発見しています。

「喜びを分かち合う経験を十分にした後でなければ、他者と悲しみ（苦しみ・痛み）を分かち合う感情は発達しない」ということを。

実は、辛い体験をたくさんした子どものほうが、他者の悲しみを分かっ

てあげられるかと言えば、決してそうではないのです。「わが子には、人の痛みが分かる人間になってほしい」と、多くのお母さんが思っているのに、陰湿ないじめが後を絶ちません。



友だちと共感する感性が欠けていて、友だちをいじめてしまう子どもたちは、幼い頃に、喜びを分かち合う経験が少なかったからだと言えるでしょう。

「あなたがいると嬉しい」という喜びの感情を、周囲の人たちとたくさん交換した子どもほど、友だちに対しても思いやりや、いたわりの感情を、しっかりと持つことができるのです。